

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年1月号 通巻13号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

タヌキを正しく描けますか？

私たちはどこで間違ってしまったのか

ここにタヌキを描いてください

右のイラストをたいていの人は「タヌキ」と認識するだろうが、リアルなタヌキとは非常にかけ離れている。このイメージを持っていると、本物のタヌキを見てもタヌキとわからないだろう。正しいタヌキの姿は図鑑や東京タヌキ探検隊！のホームページやネット検索で確かめてほしい。



全世界のタヌキスキーの皆様、明けましておめでとうございます。この東京タヌキタイムズも創刊から1年たちました。どれだけの方がお読みになっているのかまったくわからないのですが、今年もよろしく願います。

年明け抜き打ちテスト！

それでは、新年早々テストを行います！(笑) そのテストとは「タヌキの絵を描いてください」というものです。立派な絵画を描く必要はなく、鉛筆やボールペンでさらさらと描いて結構です。はい、スタート！

いざ描こうとしても、どう描いてよいか手が止まってしまった方が多いのではないかと思います。タヌキはどんな姿形でどんな模様があったか…。タヌキは誰もが知っている動物ですが、じっくりと観察したことがある人はとても少ないでしょう。そのため、本物のタヌキに出くわしても、それがタヌキなのか他の動物なのか判断できない、という例が少なからずあるようです。

上には、間違ったタヌキのイラストを掲載しました。こんな絵を描いたら落第ですのでご注意ください。このイラストは、後脚で直立しているという擬人化を除いても間違いだらけのタヌキです。タヌキの鼻は低くありません。耳は丸くありません。目のまわりの黒模様は左右つながっていません。4本の脚は黒色です。尾にしま模様はありません。このイラストはありとあらゆる点で間違っているのですが、それでも大多数の人はこれをタヌキだと認識するでしょう。

このような偽タヌキのイメージが頭の中に定着していると、動物園でリアルなタヌキを見た時にイメージの落差にとまどうはずです。「あれ？ タヌキってこんな動物だったけ？」、と。

間違ったイメージが世間に広まっていることは、東京タヌキ探検隊！の調査にも支障を及ぼしています。目撃された動物は本当にタヌキなのか？ ハクビシンやアライグマではないのか？ この問題は私をいつも悩ませています。

偽のイメージはいつから？

私たちはいつからこのような誤ったイメージを持つようになったのでしょうか。それぞれの間違いの要素は異なる時期に発生したと考えられるので、時代を特定するのは難しそうです。ただ、目のまわりの黒模様と尾のしま模様はアライグマとの混同と考えられます。すると、アライグマの知名度が一気に高くなったテレビ番組「あらいぐまラスカル」(1977年)の頃に起源があるのかもしれない。タヌキの図像の歴史的变化を調べてみると何か面白そうなことがわかってくるかもしれません。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年2月号 通巻14号 毎月1日発行 購読無料

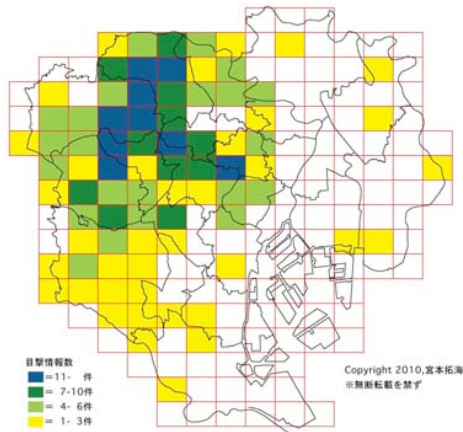
©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

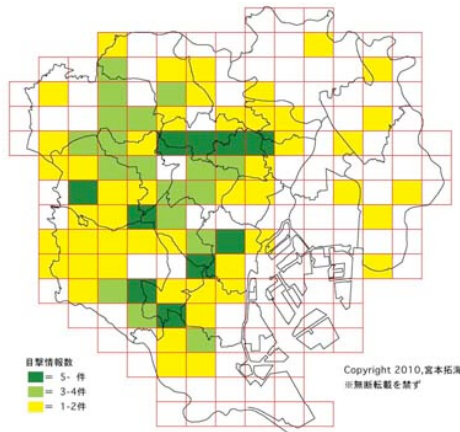
東京ハクビシンの逆襲!?

タヌキを調べていたらハクビシンのことがわかってきた

東京都23区 タヌキ目撃分布図(2007年～2009年)



東京都23区 ハクビシン目撃分布図(2007年～2009年)



左がタヌキの目撃分布図、右がハクビシンの目撃分布図。どちらも西に偏った分布をしているが、ハクビシンは都心寄りにも多く見られる。詳しくはホームページ掲載の報告書をご覧ください！

今年も東京タヌキの報告書の季節がやってきました。先日ようやく完成し、ホームページにも掲載しました。今回の報告書は2つあります。まず「東京都23区内のタヌキ、ハクビシン、アライグマの目撃情報の集計と分析(2010年1月版)」はいつものようにタヌキの目撃情報の分析とメッシュ地図を載せています。しかも今回はハクビシン、アライグマ、さらにアナグマ、キツネの情報についても載っています。もうひとつは「東京都23区内のタヌキ、ハクビシンの生息分布(2010年1月版)」です。2008年の書籍「タヌキたちのびっくり東京生活」で公開したタヌキの生息グループを再検討、新たに「白金グループ」を追加、そしてハクビシンの生息グループも掲載しました。

続出！ハクビシン目撃

今回の報告書の最大のトピックは、タヌキではなくハクビシンです。2009年の目撃情報数はタヌキ157件、ハクビシン131件でした。

ハクビシンの目撃情報が急増し、タヌキに迫る勢いでした。一時はタヌキを追い抜いてしまうのではないかなと思ったほどです。

「それってハクビシンの数が増えてるってこと？」と思う方は多いでしょうが、おそらくそうではありません。これは、ホームページにハクビシンの情報も集めていることを明記したこと、ネット検索で上位に表示されるようになったことなどが要因と考えられます。十分な自然環境もない場所で野生動物が突然急増するということはありません。

ハクビシン情報が増えたおかげで、ハクビシンの生態などについていろいろとわかってきました。特に、ハクビシンがタヌキに匹敵するほどの生息数があるらしいことや、生息分布の様子が明らかになったことは大発見と言っていいでしょう。タヌキの調査研究をメインとしている私にとってもびっくり仰天の成果です。これからは「タヌキのおまけ」のような扱いはできません。今まで以上に注目しなければならないでしょう。

目撃情報をおしらせください

タヌキの情報収集はもちろん今後も継続していきます。対象にするのはタヌキだけではありません。ハクビシンもアライグマもアナグマもキツネも、全部まとめて面倒見ます！「東京タヌキ」の看板と矛盾するようですが、これらは皆、似たような体格、生態であり、お互いに無関係というわけにはいきません。タヌキに迫るなら他の動物のことも知らなければなりません。

今年も皆様の情報提供をお持ちしています。どうぞよろしくお願いします。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年3月号 通巻15号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

東京タヌキカレンダー

タヌキ観察のお供にどうぞ

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
幼獣	上旬ごろ 出産	巣から 出てくる	行動範囲 広がる	成獣並みの 大きさに	徐々に毛が 長くなる	親離れ		冬毛
成獣	夏毛へ換毛開始		ぼさぼさ した感じ になる	換毛完了＝夏毛 幼獣との 区別難しい	徐々に毛が長くなる →冬毛へ換毛開始		換毛完了 ＝冬毛	

このカレンダーは東京都23区についてのもので、
他の地域では出産時期などが異なります。

タヌキを観察するならば、季節ごとの行動や外見の変化を知っておく必要があります。いつごろ出産するのか、幼獣の成長のスピードはどのくらいなのか、などなど。こういうことがわかっていれば、観察の方針もたてやすくなります。そこで、今回は東京タヌキカレンダーを上に掲載しました。

ここがポイント！

カレンダーを見る時のポイントその1は、子どもの成長は速い、ということです。5月に誕生して、わずか3ヶ月ほどで親とほぼ同じ体格になり、見分けができなくなります。もし冬に体格の違うタヌキ2頭が現れたとしても、それは親子と断定することはできません。単に個体差と考えた方がいいでしょう。

ポイントその2は、夏毛と冬毛の切り替わりにはかなり時間がかかることです。毛の伸びる速度はゆっくりしたものですので、ある日から突然、夏毛・冬毛に切り替わるのではありません。春から夏にかけては成

獣の長い冬毛が少しずつ抜けていきます。7月ごろはかなりぼさぼさした外見になります。幼獣の方は短かった毛が徐々に伸びていくので、まるで短毛のイヌのように見えます。ですのでこの時期は成獣と幼獣の区別は毛並みだけでもわかります。秋から冬に向けては短かった毛が徐々に長くなっていきます。ずっと続けて観察していると、「あれ？ちょっとロン毛になってきたかな？」と気付くかもしれません。

夏毛、冬毛、およびこれらの中間段階でタヌキの外見の印象は違ってきます。タヌキの正しいイメージが定着しないのはこの辺に理由があるのかもしれません。また、冬毛の期間が意外と長いことにも注意してください。4月という季節は春ですが、この頃でもタヌキはまだ冬毛で、もこもこした姿です。

なお、上のカレンダーでは特にイベントの無い1月～4月を省略していますが、だいたい3月ごろに妊娠期間に入ります。出産時期は1ヶ月ほどの幅があるかもしれません。早け

れば4月下旬ごろから出産が始まると思われます。

タヌキは冬眠しません

「タヌキは冬眠するのですか？」と時々たずねられることがあります。その答えは「冬眠も冬ごもりもしません」です。積雪量の多い寒冷地では冬ごもりをするそうですが、東京の暖かさならその必要はまったくありません。タヌキの冬毛なら多少の寒さでも十分耐えられるでしょう。ただ、東京都23区でも冬のタヌキの目撃情報は少なくなります。冬ごもりまではいかなくても、活動が不活発になっているのかもしれない。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ
情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年4月号 通巻16号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

4月1日にタヌキを見た

いや、ウソじゃなくてホントなんですってば



残念ながら高円寺のタヌキは写真もビデオもありません。今回は別の場所(23区内)でのビデオ映像から紹介します。左は自動車のライトに照らされたタヌキ(2009年8月)。右は近距離からこちらの様子をうかがうタヌキ(2009年9月)。タヌキは立ち止まって人間の方をじっと見つめることがよくあります。

私は杉並区の高円寺に住んでいます。杉並区は23区の中でもタヌキの目撃が多い地域のひとつです。ところが高円寺は杉並区の中では「タヌキ砂漠」と言えるほど目撃が少ないのです。タヌキ研究にはちょっと都合が悪い場所です。その高円寺での最初のタヌキ目撃情報は、なんと私自身によるものでした。2008年9月、夜道を歩いていた私が脇の小さな公園にふと目をやると…そこには2頭のタヌキがいたのでした！ 金網越しとはいえ、かなりの近距離での遭遇に私もタヌキもびっくりしました。

その半年後、2009年4月1日のこと。私は夜道を帰宅中でした。すると前方をなにやら動物が横切っています。ネコではありません。街灯でかろうじて肩の黒い模様を確認できるだけでしたが、あれはタヌキに間違いありません！ これが高円寺での2回目の目撃例となったのですが…。しかし、4月1日ですよ。うーん、これじゃ人に話しても信じてもらえないじゃないですか～。なにも

エイプリルフールに現れなくてもいいのに…(笑)。

家族が、友人が、同僚が

4月1日でなくても、東京にタヌキがいることを信じてくれない人はいるものです。私のところに来る目撃情報のメールの中には時々「タヌキを見たと言っても家族が信じてくれません！」というものがあります。家族以外にも「友人が信じてくれません」あるいは「会社の同僚が…」という場合もあります。「東京の、しかも23区にタヌキなんかいるわけじゃないじゃん！」と周りの人からバカにされるのです。目撃した本人は何かしてあれがタヌキだったということを証明したいと考えるのでしょう。そこでネット検索をして「東京タヌキ探検隊！」のホームページにたどり着くようです。そんな方に私はこう返信をしています。「東京都23区にタヌキは間違いなくいます。あなたが見たのもタヌキです。東京タヌキ探検隊！のホームページを家

族・友人・同僚に見せて、あれは本当にタヌキだったのだと自信を持って主張してください。」と。

ウソではない本当の話

「東京都23区＝大都会」だと思いついてみると、タヌキが生息しているなんて信じられないかもしれません。しかし、23区も端から端まで高層ビルが隙間なく建ち並んでいるわけではありません。緑地もあれば古くからの住宅地もあります。タヌキが生息できる余地は十分にあります。タヌキがいることが「ウソのようなホントの話」ではなく「東京の常識」になってくれる日が早く来てほしいと思う私です。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年5月号 通巻17号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

追悼 池田啓先生

コウノトリの先生はタヌキの先生でもあった



池田先生の著書より、「子ダヌキのいたずら日記」(写真左、1988年、ポプラ社)、これに加筆した「タヌキはぼくのたからもの」(写真中、ポプラ社、1994年)。児童書だがタヌキ研究の方法が書かれているのでなかなか興味深い。赤ちゃんタヌキを家で育てた話からはタヌキの成長の様子を知ることができる。写真右は「週刊 日本の天然記念物24タヌキ」(小学館、2002年)。この巻は池田先生ご自身が監修された。いずれも現在は入手困難。

2010年4月13日、兵庫県立コウノトリの郷公園参与(元研究部長)の池田啓(いけだ・ひろし)氏がお亡くなりになりました。60歳というまだ早すぎる死でした。池田氏はコウノトリの野生復帰の功績で非常に有名です。これについては私が語らずとも多くの人々が伝えてくれることでしょう。

一方で、池田先生はタヌキの研究者でもありました。大学院時代に長崎県の離島でタヌキの研究をし、博士号を得たのもタヌキの研究によってでした。皇居のタヌキの論文である「皇居におけるタヌキの食性とその季節変動」(2008、酒向・他)では謝辞の筆頭に池田先生の名前が登場しますし(おそらくいろいろと助言をしたのだろうと思われます)、引用文献にも池田先生の論文が多数登場しています。また、関東南部の大都市に生息するタヌキにも早くから関心を持っておられました。東京タヌキ探検隊！にとっては偉大なる先人と言える方なのです。

池田先生との接点

宮本と池田先生との接点は「週刊日本の天然記念物 動物編」(小学館、2002年～2003年、全50巻)でした。池田先生はシリーズの総監修を担当されました。宮本は外部スタッフとして編集・イラストで参加しました。池田先生は当時コウノトリの郷公園研究部長でしたが、タヌキの専門家でもあることを私は初めて知りました。この時期は私の東京タヌキの情報収集も始まっていた頃です。しかし私は下っ端のスタッフですから池田先生とじっくり話をする機会などほとんどありません。それにこちらも成果がほとんどなかった頃でしたのであまり話すことも無かったです。また、この時に池田先生が私と同じ大学出身であることを知りました。といっても年齢も学部も違いすぎていますから大学構内で出会ったことはありません。

池田先生との直接の接点はこの時だけでしたが、私が東京タヌキの本を書いた時には献本をしましたし、

毎年の報告書もメールでご案内していました。私の調査研究もこれからいろいろと成果を出せそうになってきた矢先の訃報でした。池田先生に成果を見ていただくことが私の目標のひとつただけに非常に悲しいことです。

タヌキの本当の姿を伝える

池田先生はコウノトリをはじめ多くのことにかかわってきましたが、「タヌキの本当の姿を知ってもらおう」ことも重要な仕事だと考えておられたはずです。それは私自身の目標とも重なります。目標を目指して私の東京タヌキの調査研究もまだまだ続いていきます。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年6月号 通巻18号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

無人でタヌキを監視する

センサーカメラを設置させてください



(左)見事、タヌキの撮影に成功。まともにフラッシュ光を見てびっくりしたに違いない。

(右)あれっ、スズメが写ってる！ 鳥もまれに写ることがある。

いずれも2008年12月、中野区で撮影。

タヌキを観察するには、タヌキをずっと追いかけていくのが一番いい方法だと多くの人は考えるでしょう。しかし、山奥では藪に阻まれ、住宅地でも民家など私有地に入れたらそれ以上の追跡はできません。これがタヌキ研究の難しさです(他の動物でも似たようなものです)。

では、タヌキの行動を調べるにはどうすればよいか。その方法のひとつがセンサーカメラ、つまり自動撮影装置を使うことです。センサーカメラは前を動物が通るとそれに反応して写真を撮ります。しかも電池残量がある限り動作し続けますので1週間以上放置しても大丈夫です。私も2台購入したのですが、出動回数はこれまでたったの3回だけ、しかも撮影に成功したのはまだ1回だけなのです。

タヌキ、超警戒

センサーカメラを設置させていたのは中野区の民家です。そのしばらく前からためフンの回収にご

協力いただいていた、確実にタヌキが現れることがわかったのでカメラの設置をお願いしたのです。庭に1週間、2台を設置したのですが…。タヌキが写ったのは1台だけ、たったの3枚でした。しかも初回以外はセンサーカメラを大きく避けているようなのです。もう1台の方はためフンの近くだったにも関わらずまったく写っていませんでした。こことは別の場所で挑戦した時も、タヌキはそれまでよく来ていたはずなのに、まったく写っていませんでした。タヌキはセンサーカメラをあやしい装置だ感じて近づかなかったとしか思えないのです。タヌキがそんなに警戒心が強いとは思ってもしなかったのを頭を抱えることになってしまいました。

ちなみにセンサーカメラに最も多く写っていたのはネコでした。その無警戒っぷりといったらタヌキとは正反対です。毛色の特徴から何頭来ているのかまでわかってしまいますが、それではタヌキ研究ではなくネコ研究になってしまいます。

設置にご協力ください

センサーカメラ撮影の成功率を上げるには、いろんな場所で挑戦して経験を積むことが必要です。しかし、どこにでも設置できるわけではないのが難しいところです。公道上では通行人を無差別に写すため置けません。タヌキが確実に来る場所を数mの誤差で特定する必要もあります。位置関係の都合からカメラを設置できないこともあります。

もしお庭に(あるいは会社、学校の敷地内に)タヌキがよく現れるのならば、センサーカメラを設置させていただけないでしょうか。ご協力よろしくお願いします。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年7月号 通巻19号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

そのハクビシンはシャングリ・ラを目指す 同一個体が隅田川河岸を遡上中？



現場付近の地図。ハクビシンの目撃地点は1(聖路加タワー前)→2(新川)→3(清洲橋)と隅田川を遡上している。逆方向にたどると浜離宮庭園に到る。

地図は国土地理院発行「数値地図25000(地図画像)東京」(平成19年発行CD-ROM版)を使用した。

A=浜離宮庭園、B築地市場、C=皇居、D=JR東京駅、E=銀座。

東京タヌキ探検隊！では主にメールによってタヌキなどの目撃情報を収集しています。タヌキなどを目撃した人がネットで検索し、東京タヌキ探検隊！のホームページを発見し、メールで連絡してくる、というパターンがほとんどです。目撃者すべてがホームページを見つけて連絡してくるわけではないため、この調査方法は不完全だと思われることもあります。しかし、広域での分布傾向が明らかになるなどの成果を出してもきました。そして時には奇妙な情報をもたらすこともあるのです。今回はそんな話です。

中央区の異変

最初の異変は2010年1月でした。中央区明石町にある聖路加タワー近くの隅田川テラスでハクビシンが2日続けて目撃されました。これは私のデータベースでは中央区初の目撃記録になりました。隅田川テラスとは隅田川の両岸に整備された遊歩道のことです。次は少し間があいて5

月中旬、上流の新川の隅田川テラスで正体不明の動物が目撃されました。夜の目撃だったため判別が難しく、ひょっとしたらイタチかもしれない、という結論にその時はなりました。そして今度は6月上旬、さらに上流の清洲橋近くでハクビシンが目撃されました。これも隅田川テラスのすぐそばでした。

目撃地点をつなげてみると、どうも同一のハクビシンが隅田川西岸を上流に向かって移動しているようです。中央区はハクビシンが生息するには緑地が少なすぎるため、生息数はほとんどゼロに近いと思われます。3地点のハクビシンは別々の個体ではなく同じ個体ではないかと推測されるのです。

進行方向を逆にたどっていくと、このハクビシンの出発地点は浜離宮庭園ではないか、と考えられます。ここなら緑が多く、食べ物の調達も難しくないでしょう。実は、浜離宮庭園はハクビシンやアライグマが定住しているのではないかと疑いが以前からありました。

行き着く果ては

今回のように同一個体らしき動物が何度も目撃される例は非常にまれです(定住個体は別として)。しかし非効率と思われがちなメールによる情報収集も、時にはこのように鋭敏なセンサーになることもあるのです。

このハクビシンはこれからどこへ行くのでしょうか。いつの日か安住の地にたどり着くことができるのでしょうか。もし隅田川近辺でハクビシンを目撃したならば、ぜひ東京タヌキ探検隊！までお知らせください。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年8月号 通巻20号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

真剣勝負！タヌキVSネコVSイヌ

既に勝負はついてますが…



暗い場所で撮っているので画像があまり良くないのはご勘弁を。2枚ともエサを食べているネコにタヌキが突進してきたところ。(左)ではネコは威嚇はしているが全然効果がない。(右)はネコが逃げ出す瞬間。タヌキは無言で突進してくる。いずれも2010年7月、文京区で撮影。同じ日だがそれぞれ別時刻に撮影。

タヌキ、ネコ、イヌ。これらは同じ食肉目に分類され、体格も近い動物たちです。街中で彼らが遭遇することもあるでしょう。その時、いったい何が起きているのでしょうか。

タヌキVSネコの場合、東京タヌキタイムズ2009年12月号にも書いたように、ネコが逃げ出してしまいます。5m以上距離があってもネコが先に逃げます。とにかくタヌキの方が圧倒的に優勢です。時々、ネコに威嚇されてタヌキが帰っていくこともあります。気の強いネコでないと威嚇する度胸はないでしょう。

だからといってタヌキがネコを襲うことはありません。せいぜいおどかさず程度です。体格がそう違わない者同士が本気で戦うとなるとかなりの流血沙汰になるでしょう。そこまでのリスクはとらないようです。

イヌは天敵…だった

タヌキVSイヌは、私が観察した限りではタヌキはイヌを非常に警戒

し、近づいてこようものなら逃げてしまいます。ネコの場合とは逆なのです。一方で、イヌの散歩中にタヌキと遭遇された方たちの例では、タヌキがすぐには逃げなかったことも少なくありません。どうもタヌキはイヌにリード(ひも)がついていることを見切っているようなのです。また最近の飼い犬はしつけもちゃんとされていておとなしいことも(そして小型犬が多いことも)、タヌキが逃げない理由かもしれません。イヌの方も見たことがないイヌっぽい動物を前にして戸惑っていたのかもしれませんが。もしイヌがワンワン吠えて飛びかかりそうな様子を見せればタヌキもダッシュで逃げ出すでしょう。

いずれにせよタヌキにとってはイヌは歓迎できない相手であるのは確かです。かつて野良犬が街中をうろうろしていた時代はタヌキには住みにくかったことでしょう。しかし現在では東京都23区で野良犬を見ることは非常にまれです。そのためタヌキは安心して生活できるようになったと考えられます。タヌキの目撃例

が増えたのは、野良犬が減ってタヌキの生息場所が拡大したせいかもしれません。

ではハクビシンは？

ここで忘れてはならないのがやはり食肉目で大きさも同じぐらいのハクビシンです。残念ながらハクビシンが他の動物と遭遇する場面の目撃例はとても少ないため詳しい力関係はわかりません。ただ、「ハクビシンの後をネコがついていく」という例が3件ありました。ということはハクビシンの方が弱いのかも？ でもハクビシンは電線でも屋根でも歩けますのでネコが特別の脅威になることはないでしょう。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年9月号 通巻21号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

タヌキの子どもの成長は速い そして旅立ちの季節へ



(左)7月中旬のお母さんと幼獣たち。体格差ははっきりしている。(右)8月末。左側はやや小柄なので幼獣とわかるが、右側は成獣か幼獣か識別不能。いずれも2010年、文京区で撮影。

タヌキの成長は速いものです。東京都23区でのタヌキの出産は5月上旬頃、それからたった3～4ヶ月ほどで幼獣は成獣並みの大きさになってしまします。

7月までは親子の大きさは明らかに違います。また、成獣は毛がぼさぼさなので(冬毛が抜けていく途中なので)毛並みからでも区別はできません。ところが8月も後半になると親子の体格は同じぐらいになり、単独で現れた時は親子の区別は一目ではわかりません。そこで、それぞれの個体の特徴を記録しておくようにしているのですが、確実な個体識別方法がないためにどれがどの個体かわからなくなってしまうことがあります。特に毛が冬に向けて長くなり始める9月ごろは特徴の追跡ができなくなり、個体識別もできなくなります。既に何年も観察していますし、ビデオで記録しているにもかかわらず識別は困難です。個体識別方法の確立はとにかく今後の大きな課題です。

新天地への旅立ち

成長した子どもたちはいつまでも親元で暮らせるわけではありません。10月ごろから子どもたちは親から独立し、どこかへ去っていきます。この時に何が起きているのか(親から追い出されるのか、自発的に出て行くのか)、子どもたちはどこまで遠くへ行くのか、その詳細はよくわかりません。何しろ24時間タヌキにはりつくことなど不可能だからです。

東京タヌキの目撃情報を分析すると、タヌキが最もよく目撃されるのは10月～12月ということがわかります。これは独立した幼獣たちがあちらこちらへと移動して、結果として行動範囲が広がるためではないかと考えられます。

生まれて半年ほどで独り立ちしなければならぬとは大変ですが、タヌキは生後1年で出産可能になります。いつまでも親に頼ってばかりはいられないのです。野生の世界は甘くはありません。

居残り組もいます

子どもたちの中にはそのまま親元に残る個体もいます。居残った若者は翌年は親の出産・子育てを手伝う「ヘルパー」という立場になるのではないかと考えられますが、これもどこまで親を手伝っているのかはわかりません。5月～8月の出産・子育ての時期に、お父さんお母さん以外の3頭目の成獣がいっしょにいるならば、それがヘルパーです。

9月になり、今年の子育てシーズンも終わりに近づきつつあります。間もなく旅立つ子どもたちにすばらしい新天地が待っていることを祈るばかりです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年10月号 通巻22号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

東京タヌキと生物多様性

タヌキを取り巻くさまざまな動植物たち



タヌキが食べるものの例(一部)を左図に示した。左側が動物性、右側が植物性。タヌキは動物性も植物性も食べる雑食である。積極的な狩りはせず、入手しやすいものを食べている。

今年10月、名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議が開催されます。「生物多様性」とは「多様な生物がいること、多様な生態系があること、多様な遺伝子があること」を意味します。それを保全するための国際的な話し合いがこの締約国会議です。生物多様性というとアマゾンの熱帯林やアフリカのサバンナ、日本なら知床や屋久島といった場所を頭に思い浮かべる方が多いでしょう。しかし、世界的大都市の東京にも生物多様性は存在するのです。

タヌキはなぜ生きていける？

それを象徴する存在こそが東京タヌキです。タヌキも動物ですから何かを食べなければ生きていけません。タヌキのフンを分析すると、何を食べているかがわかります。その食事の内容は、動物性の物も植物性の物もあります。つまりタヌキは雑食なのです。動物性の食べ物は、昆虫類(コガネムシ類、ゴミムシ類などの甲虫やハサミムシ類が多い)、ム

カデ、鳥、カエルなど。植物性は、カキノキ(柿)、イチョウ、ビワといった果実類などです。

タヌキはライオンやオオカミのような器用なハンターではありません。そこら辺にある、簡単に入手できるものをいろいろと食べる生活をしています。消極的にも見える食事方法ですが、こういった食べ物は都会でも条件がそろえば入手することができるものです。ですからタヌキは東京のような大都会でも生きることができるのです。

このことを視点を変えて見てみると、「タヌキがいる＝タヌキが食べる動物や植物も十分にある」ということになります。つまり、多くの人たちは気づいていないかもしれませんが、大都会にも動物や植物がたくさん存在していることを東京タヌキが証明しているのです。

見直されるべき都市生態系

都会にも多様な生物が存在するということは、生物多様性があるとい

うことであり、「都市生態系」とも呼ぶべき生態系が成立していることにもなります。都市生態系は、熱帯林ほどの豊かな自然環境ではありません。しかし、生物たちは都市環境に適応し、自立して生息しています。これも立派な生態系と言えるのです。私たちは都市生態系をもっと見直すべきではないでしょうか。そしてそこに生物たちに目を向けることも必要です。

「生物多様性」も「自然環境」も遠い世界の話ではありません。私たちの足下にも存在していることを忘れてはなりません。東京タヌキはそれを私たちに示しているのです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年11月号 通巻23号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

ついに撮った！ハクビシン

センサーカメラが夜の散歩者を激写!!



(左)2階ベランダの手すりに残された謎の足跡。細長い形はハクビシンとアライグマの後足の特徴。

(右)センサーカメラが撮ったハクビシン。フラッシュ光を反射して目が光っている。右方向から電線の引き込み線を降りてくるところだったようだ。

センサーカメラの話は2010年6月号で紹介しました。センサーカメラは設置するだけで後は自動で撮影してくれる便利な装置ですが、なかなか撮影できる機会がありません。しかし2010年8月、久しぶりにそのチャンスが巡ってきました。しかも今度の被写体はハクビシンらしいのです。

豊島区のT様からメールで送られてきたのは動物の足跡の写真でした。その足跡は塀の上や2階ベランダの手すり、電線の引き込み線などに点々と残っていました。こんなところを歩ける哺乳類というとハクビシンが最有力候補です。細長い足跡もハクビシンであることを示しています(低確率でアライグマの可能性もありますが)。

シャッターチャンスは1度だけ

T様からはセンサーカメラの設置も協力いただけるとのことでしたので、さっそく設置に行くことになりました。T様宅でのハクビシンの移

動経路はいつも同じと推測されました。そこで、1台は2階のベランダに、もう1台は1階の塀を見上げる位置に設置しました。そして2週間後、センサーカメラを回収するために再びT様宅を訪問しました。1階の方は、約400枚も撮影していたものの、それらしい動物はまったく写っていませんでした。センサーは木の葉が揺れるのに反応したようです。2階の方はたった10数枚しか撮影していませんでした。こちらも空振りか…と思いつつも写真を確認していくと、1枚だけハクビシンが写っていたのです！撮影日時はセンサーカメラを設置した日の深夜でした。引き込み線からベランダに降りようとしたところを撮影したようです。どうやらこの時のフラッシュ光を警戒し、その後はここを利用しなくなったと思われます。以前タヌキを撮った時もセンサーカメラを警戒されてしまったことがありました。彼らはセンサーカメラをあやしいものだとは認識しているのでしょ

う。本当にワンチャンスの撮影だったわけです。

あなたの家にも…？

今回の成功の理由は、ハクビシンの通り道が正確に特定できていたからです。ハクビシンが泥の上をたまたま歩いたおかげではっきりと足跡が残ったのです。足跡がなければ、おそらく誰も気付かなかったでしょう。ハクビシンは電線を歩く姿がよく目撃されますが、どうやら引き込み線や屋根や樹木を伝って電線に移動することも多いようです。もしかしたらあなたの家のベランダにも毎晩来ているかもしれません。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年12月号 通巻24号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

ダンゴムシ軍団、参上！

これが分解者パワーだ！



(左)タヌキのフンに集結したダンゴムシ。(右)は拡大写真。画像の外にもまだまだダンゴムシがいて、数百頭はいるようだ。このダンゴムシたちはどうやってフンを見つけたのだろうか。また、どれだけ遠くからやって来たのだろうか。

今回は久しぶりにためフンの話です。2010年度は東京都23区の某所で継続的にタヌキのためフンの調査を行っています。ためフンの内容物を調べることによって、都会のタヌキの食性を解明することが目的です。ところが困ったことに、必ずしも毎回フンの回収ができるわけではありません。特に暑い時期はためフン場に行ってもフンの痕跡すら見つからないことがほとんどでした。

ためフンが消えてしまう理由のひとつは、夏はフンの分解が速いからと推測できます。逆に冬になると分解が遅くなるためフンは長期間残りやすくなります。

群がる大集団

2010年6月下旬、暑い中を私はためフン場のひとつに向かって歩いていました。ここのためフン場は枯れ葉が積もった林の中にあります。そのため、フンがあればそこだけ黒くなるので遠くからでも発見しやすくなっています。その時も黒いものが

見えたので、「今日はフンがあるぞ！」と喜びながら近づいていきました。ところが、近づいてみると様子が変わります。そこでは何か小さなものが大量にうごめいています。よくよく見るとそれは…ダンゴムシの大集団なのでした！ダンゴムシぐらいで驚く私ではありませんが、これだけ大集合していると別です。ダンゴムシ軍団がたかっているのは間違いなくタヌキのフンですが、既に形はくずれています。まだ新しいフンのようで、2日以内のものだろうと思われました。分解という目に見えない細菌がやってくれることのように思われがちですが、ダンゴムシだって立派な分解者なのです。これはまさに分解の現場なのです。

「分解者」は食物連鎖を考える時に必ず登場しますが、「生産者(植物)」「消費者(動物)」に比べるとイメージがわきにくい存在です。分解者にはいろいろな生物が含まれます。細菌類のように目に見えないものの他に、菌類(キノコやカビなど)、ミミズ、ヤスデ、昆虫ではハエ

類(幼虫も含む)、糞虫(甲虫類の一部)などなどがいます。地味で目立たない存在ですが、分解者も生態系には欠かせない存在です。

ダンゴムシには勝てない…

ダンゴムシがたかっていたこのフン、本当なら持ち帰って内容物を調べなければならないのですが、既に形がくずれてしまっているし、ダンゴムシを取り除くのも大変なので、回収はあきらめざるをえませんでした。ああ、貴重な研究材料なのに…。残念無念。

ダンゴムシは落ち葉をよく食べるそうですが、タヌキのフンもなかなか美味なようですね。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>